

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700033		
法人名	特定非営利活動法人まめなかな		
事業所名	グループホームまめなかな		
所在地	岐阜県高山市赤保木町1059-1		
自己評価作成日	令和5年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_kani=true&JigyouvoCd=2192700033-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症状や身体症状が年を重ねる事に重度化しています。利用者様の残された機能を生かせるように、介護、接し方等、職員間で共有、工夫しながら居心地よく穏やかに暮らして頂けるよう見守り、支援させて頂いております。 体調の変化、異常時には提携医に相談、早期に対応しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、四季の移り変わりを身近に感じる事が出来る自然環境豊かな場所にある。同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護施設やシェアハウスがあり、コロナ禍前は、まめなカフェを実施するなど地域の高齢者を支える拠点となっている。事業所内には高山の方言が飛び交い、アットホームな雰囲気の中、ケアが実践されている。職員は介護福祉士や看護師などの有資格者を多く配置しており、専門的なケアを目指し、利用者の最期の時まで寄り添える場所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につく所に提示し、利用者様の残された機能を発揮して頂けるよう、介助を行っている。	理念は事務所に掲示してある。職員は時々目を通し、日々のケアに努めている。認知症や体が不自由になっても、住み慣れた地域の中で個々の残存機能を活かしながら生き活きと暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、行事関係を行う事ができていない。	事業所は自治会賛助会員として地域の行事にも参加していた。コロナ禍でほとんどの行事を自粛しているが、回覧板で地域の情報を知ることができ、近隣住民から野菜の差し入れがあるなど、地域とのつながりを維持している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催で、資料を送付し意見を頂いている。今後は、状況を見ながら検討していく。	今年度の運営推進会議は書面で開催を行っているが、引き続き対面実施などに向けて検討を重ねている。書面開催にあたって、家族等に意見を求めた際には、家族から、共に参加できる企画を期待する声があがっている。	運営推進会議は、事業所について、地域や家族に理解してもらえる機会でもある。感染症対策に努めた上で、地域住民や家族を交え、外部からの目が入る対面会議の再開に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは、相談できる関係性が築けている。	介護保険担当課や高齢者福祉担当課などと随時相談できる関係にある。事業所内での事故等不適切なケアが行われたときには、保険者に報告し、必要な指導や指示を受けている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などについて、ミーティングの際に勉強会を行っている。説得より、納得して頂けるよう話かけている。	身体拘束について会議や研修を重ねている。但し、やむを得ない場合などは、家族の同意を得て安全のために4点柵を利用している。その4点柵も極力外すことができるよう検討を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、ミーティングや勉強会で学び、職員は常に虐待防止に努めている。	虐待防止を徹底する必要性について、職員間で会議を重ねたり研修を行っている。不適切なケアが入居者に与える影響や、なぜ虐待が起こるのか、どうすれば防げるのかの検討を行い、必要に応じて行政へ指導・指示を仰いでいる。	各委員会が開催されているが、委員会の中で話し合った内容が混同しないよう、委員会毎に分けた記録が望ましい。また、職員間においても、正しく共有を図れる工夫にも期待したい。

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、活用できるよう取り組みます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明を行い同意を得ています。改定などの際にも、説明を行い同意を得ています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙などで意見を頂き、運営に反映できるよう取り組んでいます。	意見箱が玄関横に設置されており、家族がいつでも意見や要望、苦情等を投函することができます。事業所は、その内容を運営に反映させている。介護計画の更新時などに、運営に関する意見も聞き、サービスの質の向上に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、個別に職員の意見を聞き、業務及び運営に反映されるようにしている。	毎月の職員会議には、ケアマネジャーで看護師でもある代表者や、現場を兼ねる管理者が出席し、意見や要望を聴いている。毎朝・夕の申し送り時にも話し合いの場を設けており、食事関連やケアの方法等について話し合い、実践に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤続年数での表彰の機会を設けている。	勤続5年以上の職員には、表彰・主任制度を設けている。子育て中の職員には育児休暇や急な休み等に配慮がなされている。休憩場所・休憩時間を設けているが、重度の利用者も多く、やむを得ず介護を兼ねての休憩となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、可能な限り参加できるようにしている。	経験年数に応じて、職員それぞれが学びを深められるよう、年間を通じて必要な研修機会を提供している。また、資格取得を希望する場合は情報を提供しながら、職員の自主性を尊重している。	

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はできていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように接しています。コミュニケーションを図り、利用者様ができる事を一緒に行いながら、信頼関係を深めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が生きがいを持って過ごす事ができるよう、希望や意向を把握し支援している。困難な場合は表情などで思いを把握している。	入居時に、これまでの生活歴などを家族から聞き取り、思いや意向の把握に努めている。できること、やりたいことを介護計画に反映させている。発語が困難な場合は、その人の動作や表情、感情を読み取るよう心がけ、職員間で情報を共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティング等で、利用者様の状態について意見を出し合い、話し合いを行っている。ご家族様の意見や、希望も反映できるように介護計画を作成している。	担当職員を中心に職員全体でモニタリングを実施し家族の意見等を踏まえて、介護計画作成を行っている。本人の得意なことや、やりたいことを丁寧に介護計画に落とし込み、支援に活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日の様子など、記録に記している。職員間で情報を共有し、実践できるよう介護計画の見直しに活かしている。	タブレット端末を活用して日々の記録を行っており、業務の効率化が図れている。また、それとは別に申し送りノートなどを用意し、職員間の情報共有を徹底している。これらは、個別支援計画の更新にも活かされている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの他、有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護を持ち、利用者様の要望に応じてサービスが選択できるように体制を整えている。	同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護や住宅型有料老人ホームがあり、連携をしながら個別のニーズに向けて柔軟に対応をしている。必要に応じて、介護タクシーなどの調整も担うことができる。	

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮し、生きがいを持てるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師の往診があり、体調の変化の把握をし、適切な医療を安心して受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、自由に選択出来るが、現在、ほとんどの利用者は協力医に変更している。協力医の定期的な往診があり、看護職員と連携しながら利用者の健康管理を行っている。眼科などの他科受診が必要な場合は、家族の協力を基本としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換など、関係作りに努めている。	退院前カンファレンスは、管理者または介護支援専門員が必要に応じて参加し、入院時にはサマリーを送付する等、医療機関と連携を図っている。退院後は、状態に応じて介護計画の再検討を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、ご家族様に希望を聞いている。状態の変化をご家族様に報告し、医師、ご家族様、職員間で話し合い、方針を共有し対処している。	重度化や看取りに関する指針を書面にて提示し、契約時及び看取り開始期に家族に説明をしている。事業所としては、これまでも看取り経験があり、看取り後には職員で話し合い、振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるよう、講習会などを行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。災害についての話し合いを行い、備蓄品の完備もしている。	年に2回の災害訓練では夜間を想定し、初期消火・避難誘導等を実施している。地震や水害についても定期的に話し合っている。持ち出し用品は個々のリュックサックに入れ、いつでも持ち出せるようにしている。BCPIについては作成中であり、備蓄品は法人全体で確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、傾聴する姿勢の大切さを話合っている。方言でコミュニケーションを図っている。	日頃から、地域の方言を使うことで、利用者に親しみを込めながら、支援をしている。反面、フレンドリーな対応になり過ぎたり、自尊心を傷つけることのないよう、職員間でも気を付けている。利用者の呼称は、「名字+さん」を基本としている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を築き、声かけの仕方など工夫している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先する事なく、利用者様の希望や状況に合わせた支援をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が間に入り、楽しい雰囲気の中で食事をして頂いている。食事の準備や片付けは、一緒に行う事は難しくなっている。	食事は、季節の旬な食材や地域住民からの差し入れなどを利用しながら、専門の調理担当者が手作りしている。利用者が楽しめるよう、郷土料理を提供したり、敬老の日や正月等には、行事食を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量を確認し、記入している。摂取量が少ない時などは、捕食や栄養剤などで補っている。水分摂取は、食事やおやつ以外にも、こまめに提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に声かけし行っています。一人ひとり状態に合わせて対応し、口腔内の清潔を保つようにしている。	毎食後の口腔ケアは自分で出来る人は少ないが、可能な限り歯磨きをした後に、職員が個々の状態に合わせて歯磨き介助をし、口腔内の状態も確認している。異常があれば看護師に報告し、家族の了解の下、歯科往診・歯科受診に繋げている。	

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の習慣、行動パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴日を設けています。利用者様のペースで入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂き、夜間不安になられる利用者様には、安心して休んで頂けるよう、声かけを行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、薬の副作用、用法や用量について、その都度、共有、把握をしている。変化がないか確認、観察し、服薬確認は必ず行っている。	看護職員の体制が整っており、服薬については看護師が管理している。事務所に薬の効能や副作用、用量等の薬剤情報が保管されており、職員はいつでも確認できる状況である。利用者に変化や異常があれば、速やかに管理者、看護師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴など把握し、できる事や興味のある事を、体調に配慮しながら行っている。	職員は利用者個々の好みや出来る事の把握に努め、暮らしの中で活かせるように支援をしている。洗濯たたみや掃除機がけ等、自分の仕事として行なう人もある。作業の後は、塗り絵やテレビを見るなど、好きな事で気分転換出来るよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は控えて頂いている。	事業所はコロナ感染を避けるため、ほとんどの外出を自粛しており、家族との面会は、病院受診のみとしている。馴染みの店や場所にいく事も控えている。普段はベランダでの外気浴を促し、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が欲しい物がある時は、ご家族様にお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望され利用者様には、電話をして頂いている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保ち、転倒など危険がないように手すりなどの設置の他、常時障害物の有無を確認し、安全な環境を整備している。	共用空間の窓からは、自然豊かな景色が広がっている。室内全体に陽の光が差し込み、明るく清潔感がある。季節の花を飾った共用の間には、利用者が、新聞や雑誌を読んだり、塗り絵するなど、思い思いの活動ができるようテーブルの配置を工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各自、落ち着く場所があり、楽しく話せる利用者様が一緒に座ってみえます。安心して暮らせるよう、調整や環境作りを行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの物や、大切にしていた物を持ってきて頂いている。作品や写真を飾ったり、自分の部屋である事を認識できるようにし、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、わかる事を職員が理解し、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		